



高度技術分野に特化

表面処理
・熱処理

受託加工を本格化

コート
イ
ャ
ボ
デ
ジ

【名古屋】ボディコート・ジャパン（名古屋市西区、ジュリアン・ベイシヨア社長、052・912・5518）は19

日、熱間静水圧プレス（HIP）処理など表面処理2種と、熱処理2種に特化し受託加工事業を本格化すると発表した。

同社は英熱処理大手の日本法人で08年3月に設立した。高度技術が必要な分野に集中し、09年12月期に前年度比6倍の6億

円の売上高を旨指す。

力を入れるのは①高温・高圧ガスで金属粉末を焼結するHIP②セラミックスで表面をコーティングするK-テック③ス

テンレス専用の熱処理加

工「コールスタライジン」④ポロンを拡散させ鉄とニッケルの原子を結合させ硬い層を生成するポロナイジングの4種

の処理。

日本法人設立後は一部で受託加工をしながら日本の市場調査を中心に活動、最適な事業展開方法を検討していた。